

一八八七年五月十日(火)

〔僧院マトの兄弟たちの修行〕

翌日、火曜日。五月十日。大実母マの祝日で大そうめでたい日である。ナレンドラはじめ僧院マトの兄弟たちは今日、特別の方式で大実母マをご供養する。タクルの部屋の前に三角の図形ヤントラを準備して護摩ホマを焚く。そのあとでお供物を捧げるのだ。護摩ホマも供儀もタントラ式の方法である。ナレンドラがギター読誦ヨミをしている。

モニはガンガー沐浴に行った。ラビンドラは一人で屋上を歩いている。そして、ナレンドラの読誦ヨミする讀詞スタワ(シャンカラのニルヴァーナ六連詩シクタクム)を聞いている。

一、オーム われ心マナスに非ず、知性ブラフマに非ず

個我アハムカマ、精神チッタに非ず

また、眼、耳、鼻、舌に非ず

地、水、火、風、空に非ず

われは歓喜ナダナナのものなる至上意識

われはシヴァ(絶対者)なり、われはシヴァなり!

二、われは生氣ブラーミナに非ず、五 風バンチャ・ヴァーユに非ず

七要素サプタ・ダートリに非ず、五 藏パンチャ・コーシヤに非ず

舌、手、足に非ず、性器、排泄器に非ず

われは歓喜チターナナダのものなる至上意識

われはシヴァなり、われはシヴァなり！

三、われに嫌厭なく、愛好なく

醉迷ダルマなく、羨嫉なし

法ダルマなく、美醜なく、欲縛なく、解脱なし

われは歓喜チターナナダのものなる至上意識

われはシヴァなり、われはシヴァなり！

一八八六年四月二十二日に全訳あり

こんどはラビンドラがガンガー沐浴に行き、どっぷりと濡れた腰衣カポルをまとして戻ってきた。

ナレンドラ「(モニに向かってそっと) 今ちようど沐浴してきたところだから、この機会に出家させてしまったらいいですね」(二人で笑う)

ブラサンナがラビンドラに濡れた腰衣を脱ぐように言い、彼に一枚の赫土色あかつちの衣(僧衣)をもつてき

て与えた。

ナレンドラ「(モニに)こんどは、世捨て人の衣を着なくてはいけなくなったぞ」

モニ「はっはっはっは、何を捨てるんです?」

ナレンドラ「色情と金錢かねを捨てるんです」

ラビンドラは僧衣をまとってから、カーリー苦行室へ行って独りで坐った。瞑想をするつもりなのだろう。